

科目名 (英)	病理学概論 Introduction to Pathology	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	(通年科目)前期
【授業の学習内容】 生体を構成する細胞、組織の構成、成り立ちの理解をした上で、病理組織検査の手技、染色方法について学ぶ。 その上で、疾病の原因、分類を理解し、機能性疾患と器質性疾患の違いについて理解する。 続いて、各論として、前期は循環器系疾患、退行性病変について、後期は進行性病変、炎症、腫瘍、免疫系疾患、先天性異常、遺伝性疾患について理解する。							
【到達目標】 生体を構成する細胞、組織の正常像を理解する。その上で、体の異常な状態つまり病気状態における細胞、組織の変化について理解する。この変化のメカニズムを理解し、病気の分類、各病気の病因、病態の理解へとつなげる。 病理組織検査、病理解剖の意義、手法、各種染色方法について理解する。 循環器系疾患、退行性病変について、その病因、病態を理解する。 各病変における組織学的所見について理解する。							

授業計画・内容	
1回目	病理学総論(到達目標:病理学の成り立ち、病因、病態について説明ができる)
2回目	体の構造、組織 (到達目標:生体を構成する組織の分類、構成細胞について説明できる)
3回目	細胞機能、形態 (到達目標:細胞の構造、セントラルドグマ、細胞分化について説明できる)
4回目	病理組織 (到達目標: 病理組織標本の作製方法について説明できる)
5回目	病理組織検査 (到達目標: 一般臨床における病理組織検査、染色方法、原理について説明できる)
6回目	疾病の分類 (到達目標: 疾病の分類を説明できる)
7回目	内因性素因と体質 (到達目標: 素因と体質について説明できる)
8回目	物理的病因、化学的病因 (到達目標: 物理的病因と化学的病因ならびにそれにともなう細胞、組織の変化について説明できる)
9回目	生物的病因 (到達目標: 生物的病因ならびにそれにともなう細胞、組織の変化について説明できる)
10回目	栄養と栄養障害 (到達目標: ヒトが摂取する栄養素、その過不足により生じる病態について説明できる)
11回目	ヒトの循環、充血、うっ血 (到達目標: ヒトの循環、血管拡張とその原因、うっ血とその原因について説明できる)
12回目	貧血、虚血、出血 (到達目標: 貧血、虚血、出血とその原因について説明できる)
13回目	血栓、塞栓、梗塞 (到達目標: 血栓、塞栓、梗塞の形成と病態について説明できる)
14回目	萎縮、変性 (到達目標: 萎縮と変性、その病因と病態について説明できる)
15回目	壊死とアポトーシス、肥大と増殖 (到達目標: 壊死とアポトーシスの違い、それぞれの原因について説明できる。肥大と増殖の病因と病態について説明できる)
準備学習 時間外学習	解剖学、生理学など様々な医療系基礎科目をきちんと理解しておくこと
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	解剖学、生理学、臨床医学など様々な医療系科目と連動した教科になります。様々な知識を繋げられるように、これまで獲得した知識を頭の中で整理できるようにしておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:病理学概論 東洋療法学校協会編 他著 医歯薬出版	

科目名 (英)	病理学概論 Introduction to Pathology	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	(通年科目)後期
【授業の学習内容】 生体を構成する細胞、組織の構成、成り立ちの理解をした上で、病理組織検査の手技、染色方法について学ぶ。 その上で、疾病の原因、分類を理解し、機能性疾患と器質性疾患の違いについて理解する。 続いて、各論として、前期は循環器系疾患、退行性病変について、後期は進行性病変、炎症、腫瘍、免疫系疾患、先天性異常、遺伝性疾患について理解する。							
【到達目標】 進行性病変、炎症、腫瘍、免疫系疾患、先天性異常、遺伝性疾患について、その病因、病態を理解する。 各病変における組織学的所見について理解する。							

授業計画・内容	
16回目	再生、化生、移植（到達目標:再生、化生の成り立ち、病態について説明ができる。移植の種類と移植組織の適合について説明できる）
17回目	創傷治癒、異物処理（到達目標:創傷治癒、異物処理に関与する細胞とその作用機序、それらの過程について説明できる）
18回目	炎症の病因と病態（到達目標:炎症の五兆候、炎症部位で生じる生体反応、その病因、病態について説明できる）
19回目	急性炎症（到達目標:急性炎症の分類、病因、病態について説明できる）
20回目	特異性炎症（到達目標:特異性炎症の分類、病因、病態について説明できる）
21回目	良性腫瘍と悪性腫瘍（到達目標:良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて説明できる）
22回目	腫瘍の発生と成長、転移（到達目標:腫瘍の発生と成長の原因、様式、転移について説明できる）
23回目	腫瘍細胞と腫瘍組織（到達目標:腫瘍細胞の分化、腫瘍細胞、腫瘍組織の特徴について説明できる）
24回目	腫瘍の分類（到達目標:上皮系腫瘍と非上皮系腫瘍の違い、由来組織ごとの腫瘍について説明できる）
25回目	免疫細胞（到達目標:造血幹細胞から免疫細胞への分化、各免疫細胞の役割について説明できる）
26回目	自然免疫と獲得免疫（到達目標:自然免疫及び獲得免疫のメカニズムについて説明できる）
27回目	アレルギー(到達目標:アレルギーの分類、その病因、病態について説明できる)
28回目	自己免疫疾患、免疫不全（到達目標:自己免疫疾患、免疫不全の病因、病態について説明できる）
29回目	遺伝性疾患（到達目標:遺伝性疾患の分類、病因、病態について説明できる）
30回目	先天性異常（到達目標:各種先天性異常の病因、病態について説明できる）
準備学習 時間外学 習	解剖学、生理学など様々な医療系基礎科目をきちんと理解しておくこと
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	解剖学、生理学、臨床医学など様々な医療系科目と連動した教科になります。様々な知識を繋げられるように、これまで獲得した知識を頭の中で整理できるようにしておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:衛生学・公衆衛生学第2版 鈴木庄亮 他著 医歯薬出版	